



2024年2月9日

各位

会社名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証グロース)
問合せ先 取締役 経理財務部長 渡部 一夫
(電話番号 092-288-8470)

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2023年5月12日付で公表しました2024年3月期の通期連結業績予想（以下、「前回発表予想」といいます。）について下記のとおり修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2024年3月期通期連結業績予想数値の修正（2023年4月1日～2024年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 12,500	百万円 300	百万円 250	百万円 150	円 銭 8.90
今回修正予想（B）	13,000	△50	△70	△90	△5.34
増減額（B－A）	500	△350	△320	△240	
増減率（％）	4.0	－	－	－	
（参考）前期実績 （2023年3月期）	11,429	△25	199	△409	△24.32

修正の理由

（売上高及び営業利益）

創薬支援事業につきましては、株式会社新薬リサーチセンター（以下、「新薬リサーチセンター」といいます。）の中央研究所（北海道恵庭市）の非臨床試験受託事業について、中央研究所動物施設の老朽化と株式会社安評センター（以下、「安評センター」といいます。）の施設の拡張可能性を考慮し、経営資源集中のため安評センターへ集約を進めてまいりました。この集約過程で中央研究所の動物施設について既受注終了後に計画通り稼働を停止した結果、新薬リサーチセンターの売上高は前年同期比で大幅に減少いたしました。この売上減少を見据えて安評センターにおいては、強みであるTGR試験（Transgenic Rodent Gene Mutation Assay）を中心に受注を拡大してまいりましたが、受託試験数の増加に伴い試験完了時期が来期以降となる長期試験についても増加いたしました。一方、他の試験サービスにおいては、大型試験・長期試験の受注獲得に苦戦する中、施設の稼働率を維持するため受注活動を推進してまいりましたが、受託試験に占める短期・小規模試験の割合が増加するにつれて、施設及び人員の稼働に効率性の低下が生じ、当期売上が見込める試験受注金額の上限を押し下げる状況となりました。また、安評センターは、高収益事業体への転換を図るため、TGR試験に続く

中期発がん性試験などの高付加価値・差別化可能な新規サービスの導入や既存サービスの即戦力となる人員補強及び施設の拡充を積極的に進めております。当期は、これらの先行投資に係る費用負担が発生しておりますが、来期以降の売上・利益へ着実に貢献するものと考えております。このような状況を踏まえ、業績予想を見直した結果、当期の売上高は前回発表予想を400百万円下回る2,200百万円となる見込みとなり、営業利益^(※)も前回発表予想を400百万円下回る200百万円の損失となる見込みとなりました。なお、業績予想にあたっては、直近の原価率の趨勢を考慮しております。

投資・コンサルティング事業につきましては、円安傾向の定着や商品調達コストの上昇を踏まえ価格転嫁の動きを進め、売上高及び営業利益^(※)につきまして当第3四半期実績において既に前回発表予想を上回りました。このため、直近の趨勢を踏まえ業績予想を見直した結果、売上高は前回発表予想を900百万円上回る10,800百万円となる見込みとなり、営業利益^(※)も前回発表予想を50百万円上回る350百万円となる見込みとなりました。

(※)各セグメントに配分されない費用等の調整額を含まないセグメント利益であります。

以上の結果、連結売上高は前回発表予想を500百万円上回る13,000百万円となる見込みとなりましたが、連結営業利益につきましては前回発表予想を350百万円下回る50百万円の損失となる見込みとなりました。

(経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益)

連結経常利益につきましても、上記の影響により、前回発表予想を320百万円下回る70百万円の損失となる見込みとなりました。また、当第3四半期実績及び上記の見込みを考慮し税金費用の見積もりを見直した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回発表予想を240百万円下回る90百万円の損失となる見込みとなりました。

当連結会計年度の経営成績は、売上高を除き前回発表予想を下回る見込みとなりましたが、創薬支援事業につきましては、高付加価値・差別化可能なサービスを柱とした更なる拡大と、積極的な新規導入により高収益事業体への転換を着実に進めてまいります。また、投資・コンサルティング事業につきましては、業容拡大とともに利益率の更なる改善を進め、着実に成果に結びつけてまいりたいと考えております。

なお、当社は、成長投資の積極的な実施による一時的な減益と認識しており、今回の連結業績予想修正に伴う配当予想の修正はありません。

(注) 上記業績予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上